

## 演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●塾長

清家

篤

# 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。私たちは、皆さんを心から歓迎します。皆さんは今日から、慶應義塾の一員に、仲間入りされました。

ここであえて仲間入りと言うのには理由があります。皆さんは慶應義塾の「お客さん」ではないという意味です。

一時、大学改革などを語るときに、学生の「顧客満足」などという言葉が使われたことがあります。しかし私はそれに強い違和感を覚えました。もし学生が顧客ならば、授業料分の教育をして、どこか良いところに就職させればそれでよし、ということになるでしょう。しかし、学校とはそういうものではないと思っています。

われわれ教員は、自分の教えた学生が、良い人生を歩んでいるかどうか、卒業後も気になります。そして教育の評価は、教えた学生が、最終的に、自分はほんとうに良い学校に行ったと思っただけで、その人生を終えるかどうかにかかっていると考えています。その意味で、学生（慶應でいえば塾生）は決して顧客などではなく、われわれにとって大切な人生の後輩、仲間なのです。

さらに良い学校、価値のある学校とは、良質の教育に加えて、良い友人、先輩、後輩に巡りあえる学校です。またその学生が学問や課外活動によく励み、卒業生が社会に貢献している学校です。

ですから、学生や卒業生（慶應でいえば塾員）は、慶應義塾から質の高い教育サービスを受ける（あるいは受けた）受益者であると同時に、慶應義塾の教育の価値を高める貢献者でもあります。慶應義塾が塾生に良い教育を提供すると同時に、塾員が教育の質を高めてくれるのです。そしてそのことが、さらにまた良い塾生を慶應義塾に招くことにつながります。

私立の学校はどこでも、それぞれの建学理念を持ち、その理念に共感する教職員、学生、卒業生が集って発展させていくものです。言うまでもなく慶應義塾にとってそれは、福澤諭吉の思想ということになりますが、その核心をなすのは先生が繰り返し強調された意味での「学問」です。

学問を学びまた自ら研究することによって、自分の頭で考えることのできる人を育てる。それぞれの分野の学問の研究成果によって、世の中に新しい叡智を付加する。そして医療など学問に基づく実践活動によってさまざまな問題を解決し、人々の福祉を増進することで社会に貢献します。

新入生の皆さんも、これから慶應義塾の一員として、私たち教職員や先輩塾生、さらには卒業生である塾員と一緒に、慶應義塾をさらに良い学塾としていきましょう。皆さんにそのことを期待して、歓迎の挨拶とします。